

# 教務だより

2014年6月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## 先送りタイプを克服しよう！

茗溪塾塾長 宇野 雅春

中学生のM君は今ちょっと悩んでいます。部活動が段々忙しくなり、ひたすら追われている毎日。友達と遊んでいたところが懐かしい、といっても勉強に追われているわけでもありません。学校の授業の後は、すぐ部活…部活が終わって着替えをして、家に帰りすぐ塾へ…塾が終わって家に帰るともう疲れ果て寝るだけ。塾の授業の無い日が唯一息抜きのできる日なのですが、家でTVを見ていると親に嫌みを言われることもあり、渋々塾のオープンスペースへ行って自習。でも、集中して学習に取り組んでいるとはいえないまま、1時間くらいでさっさと切り上げてしまいます。学校の宿題をはじめ、課題は一向に片付いていきません。提出前にバタバタ状態です。生きがいは、携帯のゲーム。暇を見つけては、携帯をいじっています。勉強をしても早くやりたくてたまりませんから、勉強も程々に、という感じになります。こんな毎日でも本人は一生懸命です。休日などにのんびりと見える大人をうらやましいと思っています。もちろん大人の厳しい労働環境など知るすべもありません。今の中学生はこういう生活の中で自分が置かれている状況を厳しいと思っています。忙しいといえれば確かに忙しいのですが、少し掘り下げると必ずしもそういえないことがたくさん出てきます。

その最も大きな原因は、日々の出来事の全てを同一の価値で見ているところにあります。塾へ行くことも、部活に集中していることも、友達とゲームをすることも、ぼーっとテレビを見ることも、ひとりで携帯のゲームに没頭することも、全て同じ価値なのです。

勉強中でも友達から誘われればつい遊びに行くし、部活のあとに友情を深めるための雑談を延々と続けています。結局、やるべきことは日々の緊急な出来事の中で、どんどん先送りされ、期限が迫って「緊急事態」になって初めて取りかかることとなります。そうやっていつの間にか、大変忙しい人になっています。でも、こういう人は勉強も部活も全て中途半端で、結局「成果」がでていないのが特徴です。追い回されている状態で大きな成果が生まれるわけがありません。これは仕事の上でもいえることです。

「忙しい！」人ほど手のあいたときは、遊びやぼんやりとした無為なことに集中します。その時間の少しでも使って計画を立てたり、こなすための方法や、他の人への協力など呼びかけるような、いわば成功させるための「準備」を全く考えていないようなのです。

まとめると、足りないことは、第一に「優先順位」付けが出来ていないということ。そして第二に準備していくための「計画」性がないということです。

何が一番大切なのかが分かっていないと、常に選択を誤ることになります。十年後の自分を考えてみれば、この時期の「勉強」や「部活」はどちらも大切です。でも、「部活」が終わった「受験学年」なら「勉強」の重要性はさらに高いといえます。

M君は「そんなことはわかり切っている」と考えています。でも、見たい番組は絶対にみたいと考えています。ある日、塾で先生に「居残り」を命じられました。その日は絶対に見たい番組があったので、先生に頼みこんで、次の日の学校帰りに立ち寄る約束をして急いで塾を出たのです。だが、そこで友達から声をかけられました。つつい立ち話。家から塾へ「帰って来ない」と連絡が入り、あわてた先生が自転車で見回ると、何故か近くのコンビニで発見。友達と立ち話をしているうちに、塾の勉強を断ってTVを見ようとしていたことさえ忘れ、お腹がすいたからと「コンビニで買い食い」ということになったらしいのです。順位付けが大切な理由は、そこにあります。友達に「ノー」と言えない生徒が増えています。この流れに引きずられていくと、思わぬ事件に巻き込まれたり、人生を変えてしまうような不利な立場に追い込まれたりすることもあります。M君に必要なのは、「何が一番大切なのか」という順位付けと、友達にでも「ノー」といえる勇気です。「一番大切なこと」を判断するということはそんなに簡単なことではないのですが、先送りタイプを卒業するには、必要なことです。忙しさに「充実感」を感じる「中毒」になる前にちょっとした時間に、自分を振り返ってやるべきことを整理し、計画を立てて取り組む事を考えましょう。これからの時期の中高生は忙しい学校行事の中に、定期試験が入ってくる生徒も多くなってきます。優先順位の見極めと「計画性」が切り札になるはずです。